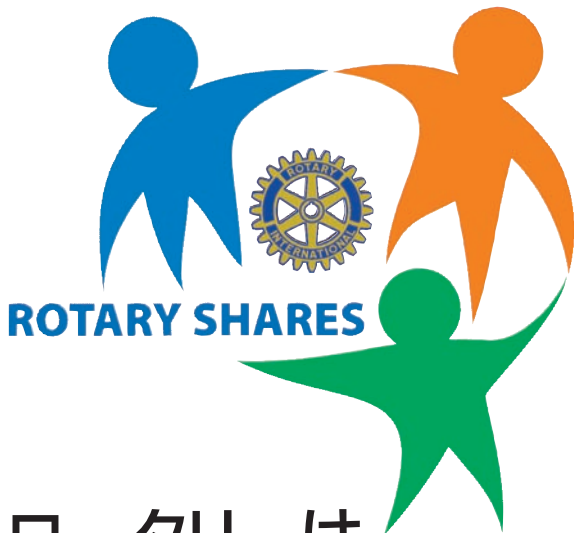




士別ロータリークラブ会報

創立1960・3・24 RI第2500地区

vol.08 No.2192



ロータリーは 分かちあいの心

2007～2008年度RI会長
ウィルフリッド・J・ウィルキンソン



士別中学校 武田吉夫 画

- 例会場／士別グランドホテル
- 例会日／毎週月曜日 12:10～13:10
- 事務所／士別グランドホテル TEL:(0165)23-1234
- 会長／本山 忠之
- 副会長／三野 博司
- 幹事／千葉 繁夫

今日のプログラム

第2272回例会 2007年9月3日(月) 〈普通例会〉

■8月27日の記録■ 〈ガバナー公式訪問例会〉

- 司 会 志村孝幸会場監督
- 斉 唱 奉仕の理想
- 本日の出席 出席率79.37% 会員63名中、出席者50名
- 本日の欠席 伊藤優市、犬伏彰吾、今井忠則、岡田 晃、国森和麿、笹野孝志、佐藤元信、菅原清人、鍋島 秀、野 英俊、三野博司、田中 全、黒田康敬
- メイクアップ 本山忠之、中川諒一(8/18地区セミナー北見市)、福澤丹治、織戸俊二(8/24～26ライラーセミナー北見市)
- ビ ジ タ ー 海田 司ガバナー、山崎晴一ガバナー補佐、山崎 正地区副幹事、渡辺喜代美米山奨学委員長、讃岐武史(帯広RC)
- ゲ ス ト 吉倉会長(士別サフォークランドサッカー協会会長)
- ニコニコBOX 福澤丹治新世代P委員長 ライラーセミナー終了
千葉道夫士別観光協会会長 第32回天塩川祭り終了お礼

累計 90,000円

例 会 予 定

■9月の予定……………(新世代のための月間)

- 9月3日(月)／普通例会・理事会
- 9月10日(月)／夜間例会
- 9月17日(月)／休会(法定休日：敬老の日)
- 9月24日(月)／休会(振替休日：秋分の日)

■10月の予定……………(職業奉仕月間)

- 10月1日(月)／普通例会・理事会
- 10月5日(金)～7日(日)／地区大会(北見市)
- 10月8日(月)／休会(法定休日：体育の日)
- 10月15日(月)／普通例会
- 10月22日(月)／普通例会
- 10月29日(月)／普通例会

■会務報告……………本山忠之会長

●本日ご出席いただきましたゲストのご紹介を申し上げます。2007～08年度国際ロータリー第2500地区海田司ガバナー、同じく美深ロータリークラブ山崎晴一ガバナー補佐、北見ロータリークラブ山崎正地区副幹事、帯広ロータリークラブより、渡辺喜代美米山奨学委員長、讃岐武史会員、また吉倉司士別サフォークランドサッカー協会長の方々です。

本日はようこそ士別クラブにおいでいただき有難うございました。後ほど、海田ガバナーより卓話をいただきます。また吉倉会長様にもお願い致します。

本日は、年に一度ガバナーをお迎えしませのガバナー公式訪問例会です。海田ガバナーは既に相当数の公式訪問を終えられておりますが、第2分区では当士別クラブが一番最初ということになります。各地域の実情は、それぞれだと思われませんが、先ほど行われましたクラブ協議会におきまして当士別クラブの活動計画等を報告させていただきました又、ガバナー並びに山崎副幹事より貴重なご意見をいただきましたので今後の士別クラブの活動の参考にさせていただきます。

先週の例会におきまして地区会員増強セミナーのお話をさせていただきましたが、その中で例会が充実し実りあるものにする為には、例会中の私語は慎む、発言者の顔に注目する、そして機会があれば積極的に情報を発信する等が発表されました。当士別クラブは例会の始まりには、まず握手からスタートします。一週間ぶりに例会に参加しメンバーと再会する、お互いの健康を喜び確認する大変嬉しい習慣だと私は思います。そしてそこに笑顔が加われば最高だと思います。笑顔は

最高の挨拶・最良の礼儀であるとある本に書いてありました。お互いがお互いを尊敬し思いやりながらロータリーのクラブライフが過ごせたら例会に出席することが、楽しみになるのではないのでしょうか。自分の自戒を込めて発言し、会務報告と致します。

■幹事報告……………千葉繁夫幹事

- 合宿の里推進協議会より、2007年日本実業団選抜男子長距離・マラソン夏季合宿選手との親睦交流会の案内が来ております。日時は、9月6日(木) 後6時30分、会場士別グランドホテル瑞雲の間、会費3,000円ですが、クラブで1,000円を負担いたします。後程、尾崎副幹事が参りますのでご協力願います。
- 北海道大学より季刊誌「リテラポプリ」、米山梅吉記念館より館報2007年秋号、士別ライオンズクラブより会報若獅子が届いております。入口の資料台に置いてありますのでご一読願います。
- 新潟県中越沖地震災害義援金、地区大会参加料について、会計にて受付しておりますので宜しくお願い致します。
- 9月3日の理事会ですが先週もお知らせ致しましたとおり、例会前11時から開催いたしますので宜しくお願い致します。

■委員会報告

ライラセミナーに参加して

……………新世代P委員会/福澤丹治委員長

- 昨日までの3日間北見で行われたライラセミナーに行きまして。天候にも恵まれよい大会だったと思います。青年は67名、ロータリアン51名、海田ガバナーを含め役員等が60名、計178名の大きな大会でした。テーマはご案内の通り自然環境にロータリーを生かそう、環境問題についてがテーマで、青年達も8つのグループに分かれて、グループワークを学びました。

講演の1つが前斜里町長さんが自然を守るために田中角栄の日本列島改造論に抵抗し、リゾート開発に抵抗しながら世界遺産に持っていったという、実際体験した生々しい中にも素晴らしいものがありました。

もう一方は、1981年から3年間南極基地の越冬



隊員として、雪と氷を研究されている高橋先生、現在は北見工業大学の教授ですが、その方が雪の研究の中で、南極の氷のボーリングの中で、現在の、地球温暖化の問題をデータを持って説明して頂いて、非常に感銘を受けました。

■協賛金贈呈

……………新世代P委員会／福澤丹治委員長

- ご案内致します。当クラブでは次世代を担う青少年のスポーツを通じて、育成されている団体に毎年それぞれの協賛金を贈呈させて頂いております。今回はサフォークランド土別少年サッカー大会第18回大会が今月の3日から3日間開催されました。結果は静岡県裾野市から来たチームが優勝致しました。サフォークランド土別少年サッカー大会の、吉倉会長さんがお見えですので協賛金の贈呈をさせて頂きます。



■吉倉会長さんから一言……………

- 第18回サフォークランド土別カップ少年サッカー大会の開催にあたり、毎年協賛金を頂きまして、大変有難うございます。協賛金につきましては選手の参加賞、大会の運営費に使わせて頂いております。

この大会は平成2年に勝ち負けだけに捕われず、サッカーを通して選手、指導者、父母、スタッフ、全ての関係者が交流することを目的に、今年で第18回目を迎えました。今年は愛知県三好町、静岡県裾野市を始め全道各地から27チーム、500名の参加を得て、8月3日～5日まで熱戦が繰り広げられました。今年は見事、静岡県の裾野トレセンが優勝しました。土別からは6年生を中心とした、サフォークチームが4位と健闘し、大会を盛り上

げてくれました。

来年8月に第19回目の大会が開催されますが、子供達のために今年同様協賛を宜しくお願ひします。簡単ですが、お礼の言葉とさせて頂きます。大変有難うございました。

■ガバナー卓話……………海田 司ガバナー

- ただいまご紹介頂いた海田でございます。会長幹事懇談会、クラブ協議会、大変貴重な時間お話をさせて頂き深く感謝申し上げます。尚、この席は例会の貴重な時間を頂戴しまして誠に有難うございます。

この度私、1月28日から2月3日までの一週間アメリカのサンディエゴで開催されました、国際協議会に出席させて頂きました。世界530の地区から参加したエレクトの1人としまして、大変恵まれた環境の中で研修することが出来ました。R I会長始め、役員の方々、そして世界各地のエレクトの方々にお会いできたことなど大変貴重な体験をさせて頂きましたこと、偏に皆様のお陰と深く感謝を申し上げる次第でございます。120万人の会員の中に共通する一本の強力な糸が存在するとなればそれは、「分かち合いと言う名の精神でできた糸です」と、ウィルキンソンR I会長が語りかけました。ロータリーとは何か、国際奉仕クラブでその120万人の会員が世界中で、それぞれの地域社会を改善するために努力していると言うものでございます。3万2千余りのクラブは何か、人々の役に立ちたいと願ひまして毎週例会を開催しております。そして日々、何万件もの有益で創造的でありとあらゆるプロジェクトが実施しています。私達全員が、世界を変えるためにベストを尽くしています。なかなか聞こえのいい答えではないでしょうか。しかし、何か欠けている様な気が致します。これではまだ、ロータリーの正体が明らかではありません。ここにいる皆様にとって、私個人にとりましてロータリーとは何か、ロータリーは魔力に匹敵するものであります。ロータリーの魔力とは、普通の人々でも素晴らしい仕事がやり遂げられることなのであります。普通やり遂げられるなどとは、全く想像も出来ないような、数々のことをやらせてしまう、それがロータリーでございます。名も知らぬ国々に良き

友を得ることが出来たのも、ロータリーのお陰でございます。また、皆様の前でこうしてお話できるのも、全てロータリーが可能にしてくれたことでございます。ロータリーのお陰で、家庭と仕事と地域社会を軸として暮らしている皆様方や私のような者が、日常生活の枠を超えましてそれ以上の何かを求める機会に恵まれます。ロータリーのお陰で、見知らぬ人々に対して心を開き、そして何千マイルも離れた地域に自分の地元と変わらぬ愛を注ぐような人間になれるのであります。なぜなら、ロータリーとは誰かれの区別なしに、全ての人類に向けられる人類愛に他ならないからであります。ロータリーはその人類愛を表現し、そして分かち合う術を授けてくれるからでございます。私達は、クラブ奉仕、社会奉仕、職業奉仕、そして国際奉仕を通じて分かち合います。また、私達は会員増強を通じて分かち合います。どんなに多くの業績を数えたところで新しい会員を増やし、そして既存会員を維持し続けることが出来なければ、ロータリーは生き残れません。新会員なくして他を語ることはできません。なぜなら、私達の活動がどんなに立派で尊いものであっても、新しい会員がいなければロータリーは数十年のうちに消滅してしまうからです。今年度R I会長の強調事項であります、水保全保険及び飢餓救済、そして識字率向上を引き継いで参りたいと存じます。綺麗な水と健康、そして読み書きの能力を授かれれば多くの人々に自助・自立の道が開かれると思うからであります。ロータリー家族という強調事項も互いを思いやり、助け合うことでロータリーが末永く存続し、そして意義ある活動を続けることができるからであります。これからのニーズに取り組む時にはどうぞロータリーの神髄が愛であり、そして親切心であることを思い起こして頂きたいと存じます。家族や仲間、そして地域社会、特に援助を受ける側の人々と接する際にはどうか、親切心を示して頂く様をお願いしたいと存じます。お腹を空かせた人に食事を持っていけばお腹を満たすことができますが、更に食卓を共にするならばその人の心も満たすことが出来るのではないのでしょうか。私達は皆、ポリオプラス、3H補助金、多くの人々を支え大規模なプロジェクトなど、ロータリーの業績を誇りに思っております。しか

し友人の為に用事を引受けたり、あるいは臨時に手を貸したりといったような日常の些細な行動も等しく大切であります。その様なささやかな行為を次のように詠っております、「良き人の人生の中で最も最良たるものそれは、誰も覚えていないような名も無き、ささやかな親切心と愛の行為」私達は、私達を感動させるロータリーの親切心と愛とは理屈とはかけ離れたものであります。それは公式や貸借対照表では表すことの出来ないものであります。愛と親切心こそが、ロータリーを可能にしているのであります。ロータリーは私達の手と心が、成し遂げられる仕事を通じ示される愛ゆえに素晴らしいと言えるのであります。ロータリアンとして私達は多々、口先だけで人類愛を語るだけではございません。ロータリアンである私達も、その愛を実践し分かち合いそしてお互いに助け合うのであります。こういった理由から2007～08年のR Iテーマは「ロータリーシェアーズ・ロータリーは分かち合いの心」と発表されたわけでございます。思いやる気持ちがロータリーに分かち合いの心をもたらし、ニーズを知ればこそロータリーは分かち合いそして、奉仕を実践すればこそロータリーに分かち合いの心が生まれるのであります。ロータリーにおける分かち合いとは、自分自身に不要となった物を施すことではありません。分かち合いとは、人の為に我を忘れて自らを捧げることであります。今年度皆さん、一人、一人にロータリーと分かち合いのものは何かと考えて頂きたいと存じます。以上、R Iウィルキンソン会長、2007～08年度テーマである、「ロータリーシェアーズ・ロータリーは分かち合いの心」の理解を深めて頂ければ良いと思います。



それでは今年度私の「自然環境にロータリーを活かそう」このテーマにつきまして少しお話をさせていただきます。今年度のガバナーの方針と致しまして、自然環境にロータリーを活かそうと提言させていただきます。1927年のベルギー・オステンドの国際大会は、ロータリーのクラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕の4つの技術概念に分類して、ロータリーの4大奉仕と称しては皆様方ご存知の通りでございます。しかし、ロータリーのあくなき奉仕哲学の追究は理論が先行したり、実践が先行し、後に奉仕理論が確立したり試行錯誤を重ねながら、新しい奉仕分野を開拓していくのでありますが、このことは奉仕理論の正当性を検証するものは奉仕の実践である、行動哲学であるロータリーとしては当然のことなのであります。奉仕哲学の持つ無限性、無究性は新しい分野例えば、青年奉仕や世界社会奉仕の分野を開拓して、1963～64年のカール・P・ミラー会長が「ミーティング ロータリーズ チャレンジ イン ザ スペース エイジ」地球規模、宇宙規模でのロータリーの奉仕の存在を示唆したのであります。「自然環境にロータリーを活かそう」この提案は、4大奉仕の範疇と必ずしも一致するものではないかも知れませんが、ロータリアンの奉仕の心に基づく行動が奉仕の実践であるならば、地球規模の環境破壊が人類の将来を期待にさらす事が明白であります今日、ロータリーの奉仕活動のうちに自然環境問題を取り上げる因縁は十分に成熟していると思います。どうぞご理解を頂きまして、ご提言、ご協力を頂きますようお願いを申し上げます。

私共ロータリアンは、毎週1回の例会に出席し、親睦のうちに地域社会の異業種の方々の異なる発想や知恵を頂きまして互いに自己を高めています。滋養の心を持って、己の足らざるところを他のロータリアンから学ばさせて頂くその糧の中で、寛容の心を持って、他人を思いやる、自他を分かたぬ心が奉仕の心であり、その心を持って地域社会の千差万別の自照に適応させて頂き奉仕の実践に努めております。このことを1927年のR I理事会はロータリアンの行動パターンから実践形態を、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕の4分類の表現に当てはめまして、ロータリーのロー

タリーたる由縁はロータリアンの自己研鑽を持つてする職業奉仕の実践にありと言う議論を確立するにいたった訳であります。従って、ロータリーの親睦は、単に感性的なものにとどまりません。精神的親睦であります。そしてこれは、他の奉仕団体に無くロータリーの独自性であります。ロータリアンはクラブ例会にある種の目的意識を持って出席すると共に、合わせて例会出席の精神的な重要性につきましても今一度考えを新たにしたいと存じます。

最後に今一度申し上げたいと存じます。我々人間は、自然の空気を吸い、水を利用して、自然によって生かされているという事実を改めて思いをしまして、謙虚にそして慎ましく生きていかなければと存じます。自然から頂戴し、自然から学びながらロータリーの奉仕の心を持ちまして奉仕の実践の切り口といたしまして、自然環境の保護、育成に努めてまいりたいと思っております。どうぞ各分区から、そしてクラブから、又ロータリアン一人一人が地域社会に積極的に働きかけをして頂きまして、知恵を発信し、R I 2500地区8つの分区68クラブのまち興し、地域興しにもリーダーシップを取って頂きたいと存じます。

ここで私の好きな標語を紹介させて頂きまして結びとさせて頂きたいと存じます。

「入りて学び、入り出て奉仕せよ。」
本日は誠に有難うございました。

